

平成 21 年 5 月 27 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18530393

研究課題名（和文）

都市社会学における生活研究の系譜と生活構造の論理構成に関する研究

研究課題名（英文）

On the logical development of life structure studies

研究代表者

田代 英美（TASHIRO EIMI）

福岡県立大学・人間社会学部・准教授

研究者番号：80155069

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：生活構造、生活研究、都市社会学、大原孫三郎

## 1. 研究計画の概要

多様化・不安定化しつつある生活とそれ起因する新たな生活問題を的確に理解するためには、生活構造論の分析枠組を再構築する必要がある。本研究は、生活構造論の基本的発想や分析枠組に関する理論的・学説史的研究から、今後の理論的展開に向けた課題を提起することを目的としている。

(1)1940年代以降の生活変動を生活構造論がどのように分析したか、視野から落ちたのは何かを明らかにする。

(2)“媒介”機能に対する認識を中心に生活構造論を分類する基準軸を提示し、生活構造論の系譜を整理する。

(3)生活問題・労働・社会問題への企業・企業家の対応は重要なテーマがあるが、これまでの生活構造論ではほとんど検討されていない。独自の経営理念を主張した大原孫三郎・大原總一郎の思想を明らかにし、生活構造論の視野の拡大を図る。

## 2. 研究の進捗状況

(1)生成期生活研究（1910年代～1930年代）の継承という点では、高野岩三郎等が先駆的に試みた労働者生活の総合的把握に関してほとんど見るべき展開がない。高野は労働者生活をトータルに把握して社会変動の能動的単位として位置づける必要性を強く意識し、そのためのプランを構想している。未完のまま残された高野のプランについて、今日的視点から意味を問う必要がある。

(2)都市社会学では、生成期生活研究とは全く異なる認識枠組で生活構造論が展開された。個人と社会構造をつなぐ媒介概念の必要性が明確に意識されていることが注目される。

しかし、それは必ずしも生活をトータルに把握するための理論構成に結びつかず、地域分析の下位枠組として位置づけられている。

(3)意外にも地域社会への視点が薄い。高度成長に乗り遅れた地域では（旧産炭地等）、不安定労働や低賃金、家族病理等のいわば古典的問題が沈澱していたのであるが、このような地域的な問題は十分に解明されないまま現在に至っている。

(4)1970年代以降、労働の質の変化を基盤とするワーキングプア、仕事の仕方の変化と過重労働が指摘されたことは、今日的な貧困の研究につながるものである。

(5)生活構造論の系譜を整理する基準軸として、調査・研究の対象となった社会層、生活問題の認識、地域社会の位置づけ、生活構造の媒介機能についての認識の4項目を提示することができる。

(6)大原孫三郎は武藤山治らの温情主義的経営家族主義を否定し人格主義を主張した。大原孫三郎の経営理念の継承者である息子總一郎の経営理念を孫三郎のそれと比較し、大原孫三郎の人格主義の根底にある経営理念・社会思想を明らかにした。また、大原孫三郎と總一郎が社会的視点から経営を思考する原動力となる彼らの社会階層の問題と時代的背景、その精神について明らかにする。

## 3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

（理由）

労働の面では非正規雇用・ワーキングプアの拡大や労働条件の悪化が急激に進行し、他方、地方分権化政策・市町村合併によって地域社会の枠組が大きく変化しつつあること

から、就業意識や生活行動の現状を把握しておく必要があると判断し、幾つもの調査を実施した。そのため、現状に関するデータの充実に乏しいことはできたが、理論的・学説史的研究が当初予定より遅れがちとなっている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

(1)基本文献は継続的に収集しており、分類基準軸の設定についても固まりつつある。各文献の系統的な整理を早急に進め、今年度中に研究報告書を作成する予定である。

(2)当初の研究計画に生活行動と生活意識の現状分析を加える。理論的・学説史的研究と就業意識・生活行動の現状に関するデータ分析の結果の双方を踏まえて、生活構造論の今日的課題を考察する。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① 田代英美、「筑豊地域における交通行動の実態と整備の考え方」『筑豊地域における交通体系検討事業報告書』51-100 頁、2009、査読無
- ② 清田勝彦、田代英美、中村晋介、「若年者の就業意識に関する比較研究」『福岡県立大学生涯福祉研究センター 研究報告叢書』35 巻、143-196 頁、2008、査読無
- ③ 佐藤繁美、「石井十次に関する大原孫三郎の講演－1939 年同志社アーモスト館における石井十次記念会の速記録－」『石井十次資料館研究紀要』第 7 号、110-139 頁、2006、査読無

[学会発表] (計2件)

- ① 佐藤繁美、「福智町の合併に対する調査」報告Ⅰ－社会構造からみた合併の評価、2007 年 11 月 17 日、日本社会学会、関東学院大学
- ② 田代英美、「福智町の合併に対する調査」報告Ⅱ－生活構造からみた合併の評価、2007 年 11 月 17 日、日本社会学会、関東学院大学